

五の池 小屋だより

一瞬の輝き

梅雨時の山は、雨ばかりか濃い霧に包まれることが多く、本当に気分を憂うつにさせる時期である。しかし、昨日の夜空には久しぶりに星が出ていた。期待に胸を膨らませ、早朝4時、目を覚ます。まだ薄暗いが、空はかすかに青みを帯び、今日は間違いなく快晴だ。布団に入っている場合ではない。

御来光を見ようと、慌てて外へ出て、小屋のすぐそばの小高い丘に駆け上がる。すでに東の空が赤くなっていた。今日はいいぞ。やがて、雲のじゅうたんから、なんとも美しい朱色の光が一粒の点となって現れた。そして、その光はどんどん大きく広がって、僕も山もみんな包まれていった…。

足元に咲く白や黄色の高山の花々は、昨日までの雨に濡れてまるで宝石のよう。何もかもが輝いていた。僕は、全身に朝の光を浴び、すがすがしくとても気持ちよかった。最高の朝であった。

どこまでも抜けるような空と、美しい景色に見とれ、気分は上々。長雨の憂うつな気分はどこへやら。一気に吹き飛んでしまった。

そういえば僕はまだ朝食もすませてない。小屋に戻らなければ。梅雨の晴れ間は一瞬。今日はずっと外にいたい、そんな幸せな気分である。